



農協だより

稲作講習会

内容

健苗育苗と田植後の管理まで
除草剤の効果的な使用方法について

時間

* 午前部 10:00 より
* 午後部 1:30 より



各支店の日程

皆様お誘いの上、お気軽にご参加ください。

日時	3月4日(月)		3月5日(火)		3月6日(水)		3月7日(木)		3月8日(金)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
会場	畑賀 2階	阿戸 2階	熊野 2階	中須賀 2階	東海田 2階	中野 2階	上瀬野 3階	瀬野 2階	追分	初神 老人集会所

平成25年産米の市町別生産数量

「農協だより 2月号」に海田町、熊野町、坂町の平成25年産米の市町別生産数量目標を掲載しました。広島市安芸区の市町別生産数量が2月6日に平成24年度広島市地域農業再生協議会臨時総会により決定されましたので、ご報告いたします。また、農林水産省中国四国農政局広島地域センターより平成25年度農林水産関係予算の説明があり、平成24年度実施された「戸別所得補償」について、平成25年度は「経営所得安定対策」と名称変更されるもほぼ同じ内容で実施される説明がありました。



区分	平成24年産米			平成25年産米	
	生産数量目標(kg)	換算面積(ha)	注食用水稻作付面積(ha)	生産数量目標(kg)	換算面積(ha)
安芸区	731,510	144.0	136.8	706,500	138.8
JA安芸内	712,210	140.2	133.5	689,200	135.4

市長と農業者との懇談会

2月12日JA広島市本店にて広島市農業振興協議会と広島市農業委員会が共催で、農業者、JA、広島市農業関係職員と市長が参加して広島市の農業、農村のあり方について「市長と農業者との懇談会」を開催いたしました。はじめに、農業者4名が「地産地消の取組」をプロジェクターを使って発表いたしました。つづいて松井市長が「農業においてもグローバル化による問題が生じているが、農業は大変重要であり市民の理解を深めて守ってゆきたい」と話され、情報交換や意見交換が行われました。



「スローライフで夢づくり」定年就農者選考会

広島市は自然豊かな農村部に定年後新規就農を志す方に、1年間の研修機会を与え研修終了後は10aの農地を輪流して就農させる事業を行っています。平成24年までにJA安芸管内へ瀬野地区5名、阿戸地区2名の就農がありました。地域貢献を行い、安心・安全な農産物を市民に提供しています。平成24年度の研修終了生は瀬野川地区へ2名就農されることが決まっています。JA安芸では、就農者にはJA安芸活葉倶楽部に入会していただき就農後の営農指導を行っています。今回は、平成25年度研修生の選考会でしたが、5名の方が合格され公益財団法人広島市農林水産振興センターで1年間研修することになりました。



平成26年1月から記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されます。

広島県農業協同組合中央会、JA広島営農・生活指導担当者協議会が主催して平成24年度指導員養成研修会が行われました。今回の研修では、平成26年1月より農業所得等の事業所得の確定申告にかかる「記帳・記帳等保存制度」の変更が行われ、これまでは記帳や帳簿等の保存が免除されていた所得300万円未満の小規模農家(直売所等への販売者も含む)や、確定申告が不要な者においても記帳・帳簿等の保存が義務づけられることについて、広島国税局課税第一部個人課税課記帳指導専門官岡信行氏と広島東税務署特別記帳指導官井上裕史氏による説明がありました。この制度の変更により広島県で24万人保存義務の方が増える予定です。平成25年より記帳練習を行い有利な青色申告を勧めておられました。青色申告の申し込み期限は、平成26年に青色申告をする場合は平成25年3月15日までに税務署へ青色申告の申請書を提出する必要があります。(別紙チラシを添付しています。)

ヌートリア防除講習会

熊野町在住の町内の農業を行っている方を対象に、熊野町では「ヌートリア防除講習会」を町内5ヵ所で実施いたしました。講師は熊野町鳥獣被害対策実施隊の先生でヌートリアの生態・捕獲の方法ほかを説明していただきました。受講者のほとんどの方がヌートリアを目撃しており、かなり増えていることがうかがわれました。ヌートリアは、南アメリカ原産として頭胴長35~63cm尾長25~50cm体重0.9~9.4kg日本では防寒用の毛皮として戦時中から終戦直後まで全国的に飼育されていました。現在は主に河川、水路、湖沼、ため池など流れの緩やかな水辺に生息しており、水田、野菜等に被害を与えています。今回の講習会を受けた方は、ヌートリアの防除従事者証を発行してもらい捕獲することができます。管内であちこち被害がでており対策の急がれるところです。



水稻種粃の温湯消毒の日程

3月21日(木) 3月26日(火) 4月3日(水) 4月8日(月)
4月9日(火) 4月16日(火) 4月18日(木) 4月19日(金)
完全予約制です。詳しくは営農指導センター(855-6176)までお願いいたします。

3月 営農メモ

水稲

種子更新 何年も種籾を更新していないと品質低下の原因や病害虫にかかりやすくなりますので、2年に1回は種籾の更新を行って下さい。

塩水選 種子消毒の効果をより高めるため、塩水選を行いましょ。

水 10ℓ に対し塩を 2.2 kg (もちは 1.2 kg) を溶き、種籾を洗め水と充分馴染む様攪拌し、浮いた籾には不稔粒や病害虫の影響を受けたものが多いので、ていねいに取り除きます。

塩水選後は流水で塩分を充分に落としてから種子消毒を行います。すぐに消毒しない場合には充分乾燥させてから清潔な場所で保管して下さい。

種子消毒・浸種

水 20ℓ に対しテクリードCフロアブル 100ml (200 倍) + スミチオン乳剤 20ml (1,000 倍) を溶き、攪拌後消毒します。(種籾 15 kg に対し、薬量 20ℓ 程度必要です。)

水温が 10~20 取れる場所で消毒して下さい。24 時間後、風乾させてから浸種となります。

浸種は始めの 2 日間は薬の効果をあげるため水の入替えはせず、3 日目より水の交換を行って下さい。(種籾の量が多い場合は上下の入替えも行して下さい。)

浸種開始後、水温の積算が 110 前後で鳩胸状態を確認し、発芽を揃えるため 30 で 24 時間程度催芽を行って、芽が 1mm 程度に伸びた籾を播種しましょう。

~ ~ ~ 農業講座の募集案内を別紙でご案内しています。 ~ ~ ~

たい肥の基本的な考え方について

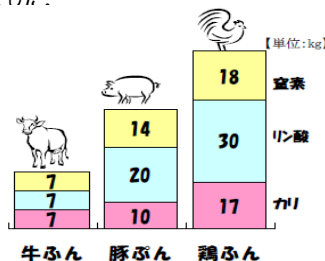
まだまだ寒い日が続きますが、雪が溶け始める 2 月下旬頃から春作に向けての土づくりが始まります。そこで今回は土づくりで使う「たい肥」の基本的な考え方について説明します。

1. たい肥とは何か

農業利用を目的とし、わら・もみ殻・樹皮・動物の排泄物などを堆積し、微生物の力で好氣的に分解したものを「たい肥」と言います。きゅう肥・コンポスト・有機物などと呼ばれることもあり、かつてはわら・落ち葉・野草などを堆積し分解させたものを「たい肥」、家畜の糞尿を主原料とするものを「きゅう肥」、農業系以外の有機性廃棄物を堆積発酵させたものを「コンポスト」、すべてを総評する「有機物」と 4 つに区別されていることもありましたが、しかし現在では、多様な有機質資材が原料として用いられ、また単独ではなく混合して堆肥化することが多くなっているため、特に区別せず「たい肥」と呼ばれることが多いようです。たい肥と肥料の違いはいろいろありますが、大きな違いは、肥料は「作物が育つのに必要な養分の供給をする役割(肥料効果)」のみを担うのに対し、たい肥は「作物が育つ土壌環境を改善する役割(土壌改良効果)」を補うという点です。ただし、たい肥といわれるものの中には、鶏ふん・豚ふん等の肥料効果の高いたい肥もある為、使用する際には、たい肥の種類による性質の違いを理解し、本当にその畑に合っている、自分が狙いたい効果を発揮できるたい肥かどうかを見極めて使い分ける必要があります。

2. たい肥の種類による性質の違いについて ~ 肥料効果 or 土壌改良効果 ~

一般的に使用されるたい肥については、まず大きくわら・もみ殻・パーク・落ち葉などの植物を原料としたものと、牛ふん・鶏ふん等の家畜糞を原料としたものとに分けることができます。植物原料のたい肥は、土壌改良効果(排水性・通気性・軟かさ等)は高いですが肥料効果は低い、対して家畜糞たい肥は、肥料効果は高いですが、土壌改良効果は低いたい肥となります。さらに家畜糞たい肥は、ふんの種類によっても違いがあり、肥料効果は鶏ふん > 豚ふん > 牛ふんの順となり、土壌改良効果は牛ふん > 豚ふん > 鶏ふんの順となります。【図 1】にあるとおり、鶏ふんは特に肥料成分が多いたい肥としてよりも肥料として使うのが良いといえます。鶏ふんを多用してきた圃場では、土壌分析をすると肥料過剰(リン酸等)になっていたり、アルカリ性に傾いていた(採卵鶏のふんは石灰量が多い)といった事例も多々ありますので注意が必要です。とわいえ、鶏ふんは安くて施肥コストを軽減する為には欠かせない資材なので、その特性を理解し、牛ふんたい肥やパークたい肥等の土壌改良効果の高いたい肥と併用しながら上手に使うことが望ましいです。また、その他たい肥原料の性質については【図 2】に記載しました。



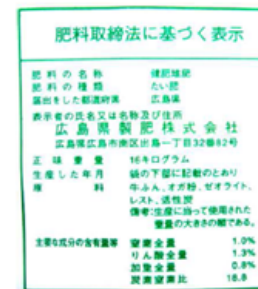
【図 1】家畜糞堆肥に含まれる肥料成分例 (藤原俊太郎「堆肥のつくり方・使い方 原理から実践まで」p.98 を一部改題)

原料	原料の特性				施用効果	
	水分	炭素	窒素	カリ	肥料効果	土壌改良
牛ふん	○	○	○	○	○	○
豚ふん	○	△	○	○	○	△
鶏ふん	○	○	○	○	○	○
わら類	○	△	△	○	○	○
もみ殻	×	×	×	×	×	○
野菜くず	○	○	○	×	○	○
枯草・木屑	×	○	×	×	×	○
パーク(樹皮)	△	×	×	×	×	○
剪定クズ	○	○	×	△	△	○
キノコ廃培地	○	○	△	△	△	△
生ゴミ	○	○	△	△	△	△
オカラ	○	○	△	△	△	△

【図 2】各堆肥原料の性質 (藤原俊太郎「堆肥のつくり方・使い方 原理から実践まで」p.59 を一部改題)

3. たい肥の性質の判断方法は ~ たい肥の表示・C/N 比・熟度 ~

たい肥の表示 たい肥の性質を判断するうえで参考になるのが、袋に記載された「肥料取締法に基づく表示」です【図 3】。これはたい肥の身分証明書のようなもので、原料や肥料成分量等が記載してあり商品名や商品説明だけでは分からないような情報を知ることができます。例えば、商品名はパークたい肥であっても原料に鶏ふんが多く入っていて肥料成分は高いということがわかります。また、たい肥は肥料取締法上では特殊肥料となり、化成肥料などの普通肥料で定められている肥料成分の公定規格は無く行政への届出で製造及び販売が可能です。ところが、汚泥(食品工場・下水処理場等で発生する泥状の廃棄物)を原料に使用している場合、特に下水汚泥等ではカドミウムの有害な重金属が多く含まれてしまう可能性がある為、製造・販売に際しては、重金属の最大量の制限、銅や亜鉛の含量が一定量以上ある場合は注意を表記する、農林水産大臣への登録が必要など様々な制限があります。袋等への表示も、普通肥料と同じ「生産業者保証票」を添付しなければいけません。汚泥を原料としたたい肥は、比較的安価なものも多く、最近では流通量が増えつつありますが、なかには、適正に表示がなされていないものも見受けられます。たい肥の流通・指導に際しては、適正な表示がされているかどうかを確認して、作物や農地に悪影響を与えないものを選ぶことが重要です。



【図 3】肥料取締法に基づく表示 (写真はご当地肥料の例)

~ 別紙につづく ~

C/N比

C/N比は、たい肥の性質や堆肥化の進行状態を判断する重要な数値です。堆肥化は微生物の働きによって行うものであり、微生物が活動するためのエネルギー源となる成分(炭素 C)や微生物が増殖するための菌体を構成する成分(窒素 N)が必要となりますこの全炭素含量(C)と全窒素含量(N)で割った値をC/N比(または、炭素率・炭素窒素率比)といいます。原料の状態でわら・もみがら・パーク等は 80~100 程度と高く(窒素が少ない)、家畜糞は鶏ふん 6~8 牛ふん 14~16 程度と低い(炭素が少ない)です【図 4】。原料の種類にもよりますが、大まかには C/N 比が高いたい肥は土壤改良効果高く、低たい肥は肥料効果が高いといえます。高すぎる場合は窒素飢餓等の生育障害が起こる可能性があり、低すぎる場合もたい肥としての土壤改良効果が低くなりますので、土壤改良効果・肥料効果をバランスよく発揮する中間的なたい肥の C/N 比はおおよそ 20 程度といえます。

	C/N比
鶏ふん	6~8
豚ふん	9~12
牛ふん	14~16
生ゴミ	10~15
野菜くず	8~21
判定くず	42~87
もみがら	80~100
おがくず	100以上
トク(樹皮)	120以上

【図4.堆肥原料のC/N比】
(藤原俊六郎『堆肥のつくり方・使い方 原理から実用まで』p60を一部改編)

たい肥の熟度

分解が十分に進んでいない未熟なたい肥は、作物の障害の原因になるので注意が必要です。(未熟堆肥による障害... 窒素飢餓による生育不良 生育阻害物質による生育不良 土壤の異常還元による酸欠・根腐れ 土壤の肥料バランスの悪化)堆肥の熟度判定は多様な原料を使ったたい肥があり、すべての堆肥に適用できる基準は現在のところありませんが、一般的な方法として、温度(堆積発酵中の温度上昇と腐熟後の温度上昇の緩和等による判断) 色(原料の元々の色によるが、腐熟が進むと黒っぽくなる) 幼植物試験法・ポット栽培試験法(小松菜等を栽培し、根の状態・生育程度を確認する)

C/N比は分解が進むと低くなる。(原料によって異なるが、パークたい肥は 35 以下、家畜ふん混合堆肥では 20 程度など) 肥料成分分析などで判断する方法があります。

使用場面では 匂いや外観(糞尿臭やガス臭がする、原料の形が残っている等) ミミズで評価(堆肥にミミズを入れて観察する方法。未熟だと土に入るのを嫌がったり、死んだりするが、完熟だとたい肥中に潜り込み生存する)などから判断する方法があります。もし、使用予定の堆肥が未熟な堆肥が未熟な堆肥の可能性がある場合は浅めに施用し(好気性発酵を促す)1 ヶ月は放置して播種・定植する必要があります。ただし、たい肥による失敗は未熟な堆肥を使ったことによる失敗がほとんどですので、上記を参考になるべく熟度の高いたい肥を使用することが賢明です。

こだわり健肥の特徴

『こだわり健肥』は牛ふんとおが粉を主体に、発酵を促進する天然ミネラルやゼオライトを加えた堆肥です。C/N比は 18.8 と土壤改良効果・肥料効果のバランスも良く、あらゆる場面でご使用いただきやすい堆肥です。また、こだわりの製法で年間を通じて安定した品質を保つ熟度の高い堆肥です。

JA全農ひろしま ひやく通信より

今月号では、野菜用肥料の予約注文書を同封しております。上記の堆肥「こだわり健肥」のほか、これから植付けが始まる、きゅうり・トマト・ナスなど果菜類に対して効果の高い基肥用「やさい有機 189」と追肥用「やさい有機 129」、トマトやナス、ピーマンなど尻ぐされ病に効果の高い「畑のカルシウム」、タマネギの「べと病」に予防効果の高い「プロポーズ顆粒水和剤」を入れております。予約価格で通常よりもお安くなっておりますので、是非この機会にお求めください。